

ヒット作を見抜く目+LEF-12でキャラグッズビジネスに成功の糸口



オオツカビジュアルに導入されたLEF-12。看板、サインだけでなく、キャラグッズメーカーとして確立するために活用。キャラクターは大塚社長自らが好きなキャラをグッズ化することで、そのキャラのファンとの交流を深めている。

「当社は『看板屋』ではあります。せん」。オオツカビュアル(株)のホームページには、そんなキャラチコピーが掲げられている。同社の大塚鉄也社長は、両親が営む老舗看板業(有)オオツカ美工に入社した後、オオツカビュアルを立ち上げて独立。現在も看板、サイン、交通広告などを手掛ける根っからの「看板屋」にも関わらず、それを否定するようなキャラコピーレを掲げている理由は、「自分が持っている技術やノウハウを全て使えるような仕事がしたかった。そのためには、『看板屋』というカテゴリーにくくられているとダメだと感じたんです」。

こうした考えを持つようになったのは、看板業界の低迷にある。特にインクジェット出力の看板は、年々あたりの価格が下がり、「何かしないといすれダメになつる」。そこで手かけるようになつたのが、「キャラグッズ」だ。

LEF導入理由は信頼感、商品の幅、安定した色

次に目を付けたのは、シリーズ累計3000万ダウンロードの人気アプリ「おさわり探偵なめこ栽培キット」。まだ人気が出始めの頃、大塚社長は運営元へ「グッズを作らせてほしい」と直談判。大判プリンターで「ホワイトボーダステッカー」を作り、プレゼン



大塚鉄也社長とLEF-12。

company profile
オオツカビジュアル株式会社
〒485-0013
愛知県小牧市新町2-296
<http://o2kavisual.net/cms/>
【事業内容】
◎看板サインの企画、製作
◎キャラクターグッズ、ノベルティグッズ製作
◎カラーラッピング、交通広告製作～施工
◎宣伝企画、広告制作
◎小規模LAN、VPN、ネットワークの構築……など

きつかけは09年、「萌え看板」で有名になった寺がニュースで取り上げられた。それを見た大塚社長は、「こんな絵の看板もおもしろい」と考えた。そこから実際にニュースで見た萌え看板の作者「ところ美サイン」(写真④)を飛出し注意!などの萌え看板にして、同社の自社ブランド「サインショップ02」のネットショッピングで販売したところ話題となり、「キャラグッズ」に手ごたえを感じた。

同社ではこれまで白色、メタリ

きつかけは09年、「萌え看板」で有名になった寺がニュースで取り上げられた。それを見た大塚社長は、「こんな絵の看板もおもしろい」とと考えた。そこから実際にニュースで見た萌え看板の作者「ところ美サイン」(写真④)を飛出し注意!などの萌え看板にして、同社の自社ブランド「サインショップ02」のネットショッピングで販売したところ話題となり、「キャラグッズ」に手ごたえを感じた。

を提出。これが好評で、年賀用の粗品として採用。以降は「なめこ栽培キット」のライセンシーとしてグッズ製作をおこなっている。

そして11年12月、同社はローランドDGの厚物UVプリンター、「LEF-12」を導入した。

「今後、柱としていくキャラグッズ、オリジナルグッズの基盤を作るためにです」(大塚社長)。

①オオツカビジュアルの製造現場。奥に見えるのがローランドDGの大判プリント&カット機「XR-640」。通常のサイン関連だけでなく、キャラグッズにも活用。同社にはこの他に昇華プリンター、スマホカバーやマグカップ用の真空転写機、平型の熱プレス機が設置されている。同社はネットショップを通じ、看板、サインや1点モノのオーダーグッズも受注している。



②小牧山城築城450年記念グッズ。スマホカバーをよく見るとクリアインクで「小牧山城築城450年」と小さな字でプリントされている。③「なめこ栽培キット」のステッカー。④キャラグッズ参入のきっかけとなった「とろ美サイン」。⑤こもろすみれ姫グッズ。昇華転写、溶剤プリントを活用してウェアプリントもおこなう。⑥⑦⑧東北北ずん子のグッズ。地域の萌えキャラだが、人気が出て秋葉原のショップなどでも販売されるようになった。⑨はレンチキュラ3Dバネルと拡大写真。LEFでプリントされている。

ツク、レンチキュラなど多彩な印刷を手掛けた。しかし、それはあくまでも大判プリンターを使ったもの。グッズ製作には手持ちの商品では幅が狭いと感じていた。それが「LEF-12」でスマホカバーやボールペン、絵馬型ストラップ、アクリルへのプリントなどが可能になり、幅が広がった。「他にも看板製作の面で、小さな材料に直接印刷が可能になったことで、従来は外注に出ていたシルク印刷ではなく、LEFによる内製が可能になった」と大塚社長。

数ある厚物UVプリンターの中から「LEF-12」を選んだのは、大塚社長自身がローランドDGのファンだから。長年使用してきた大判プリンターやプロッタもローランドDG製で、「RIPの使いやすさ、機能、周辺ソフトへの対応など安心できるメーカー」。長期間使つても破損やトラブルが少なく、高い品質を維持してくれるメンテナンス等で訪れるスタッフが様々な技術相談に乗ってくれるもの魅力だと言う。また、大塚社長が信頼しているのは「色」。

「広告代理店からの看板や、キャラクターグッズのデザイン審査・監修などシビアな色を要求されるシーンにおいても思い通りの色が出せます」。

ツク、レンチキュラなど多彩な印刷を手掛けた。しかし、それはあくまでも大判プリンターを使ったもの。グッズ製作には手持ちの商品では幅が狭いと感じていた。それが「LEF-12」でスマホカバーやボールペン、絵馬型ストラップ、アクリルへのプリントなどが可能になり、幅が広がった。「他にも看板製作の面で、小さな材料に直接印刷が可能になったことで、従来は外注に出ていたシルク印刷ではなく、LEFによる内製が可能になった」と大塚社長。

数ある厚物UVプリンターの中から「LEF-12」を選んだのは、大塚社長自身がローランドDGのファンだから。長年使用してきた大判プリンターやプロッタもローランドDG製で、「RIPの使いやすさ、機能、周辺ソフトへの対応など安心できるメーカー」。長期間使つても破損やトラブルが少なく、高い品質を維持してくれるメンテナンス等で訪れるスタッフが様々な技術相談に乗ってくれるもの魅力だと言う。また、大塚社長が信頼しているのは「色」。

「広告代理店からの看板や、キャラクターグッズのデザイン審査・監修などシビアな色を要求されるシーンにおいても思い通りの色が出せます」。

ツク、レンチキュラなど多彩な印刷を手掛けた。しかし、それはあくまでも大判プリンターを使ったもの。グッズ製作には手持ちの商品では幅が狭いと感じていた。それが「LEF-12」でスマホカバーやボールペン、絵馬型ストラップ、アクリルへのプリントなどが可能になり、幅が広がった。「他にも看板製作の面で、小さな材料に直接印刷が可能になったことで、従来は外注に出ていたシルク印刷ではなく、LEFによる内製が可能になった」と大塚社長。

加速したキャラグッズ製作 繁忙期は看板に匹敵

看板は注文が少なくとも、1件の金額が大きい。比べてキャラグッズの単価は低い。にも関わらず、繁忙期には売り上げ額が5対5になるほど好調。しかし、キャラグッズは誰もが作れるわけではない。「なめこ栽培キット」などは人気がありすぎて、今や新参者が食い込む隙はない。オオツカビジュアルが手掛けることに成功したのも、ひとえに大塚社長が「ヒット作を見抜く目」を持ち、他社が動く前にグッズ製作の売り込みをかけているからこそ。自身は謙虚に否定するが、これまで手掛けてきたキャラクターグッズがことごとくヒットしているのは事実。

「売れているキャラだからグッズを作るのではなく、自分が好きだ

からグッズを作る。SNSでファンと交流してきた商品も」。ゆるキャラブームや地方キャラの増加で、キャラグッズは小ロット多品種化。一般企業とのコラボも増え、グッズ市場は拡大傾向にあると大塚社長は見る。

「その中でニッチなキャラや他にない商品展開で差別化を図るために、LEFを活用したい」と言う。ヒット作を見抜く目が次に手掛けるのは、一体どんなキャラなのだろうか。



□仕様 LEF-12

標準価格：2,800,000円（税別）
※専用脱臭装置付
寸法：W999×D862×H549mm
重量：85kg
設置可能材料：
最大W335×D310×H100mm／最大5kg
印刷範囲：最大W305×D280mm
印刷解像度：最大1440 dpi
使用インク：ECO-UVインク (C, M, Y, K, WH, GL)